

かしば 第6号 つながる通信

つながりが続く、広がる、かしばの活動

発行元 香芝市介護福祉課 / 香芝市社会福祉協議会

〒639-0251 奈良県香芝市逢坂一丁目374番地1 (香芝市総合福祉センター内)

かしばし社協HP <https://ka-shakyo.or.jp>

☎ 0745-76-7107 ✉ info@ka-shakyo.or.jp

つながる場でみんなが元気に!!

夏休み・お楽しみ会

(畑之浦・旭ヶ丘しみず会)

【畑之浦】

〈人口〉890人 〈世帯数〉360世帯
〈高齢化率〉24.61%
(令和5年5月31日現在)

【旭ヶ丘】

〈人口〉854人 〈世帯数〉304世帯
〈高齢化率〉4.05%
(令和5年5月31日現在)

「畑之浦・旭ヶ丘しみず会」は、畑之浦地区と旭ヶ丘地区の隣り合った2つの自治会域をエリアとして、世代間交流行事などの地域福祉活動に取り組んでいます。両地区とも、香芝市の北部に位置し、新旧住宅地が在っています。近隣の他地区も含めて合同で老人クラブを運営していたことがあり、互いにつなが

りが深い地域です。

夏休みに子どもの居場所を

夏休み・お楽しみ会は、ヨーヨー釣りや輪投げ、的あてなど、子どもが楽しめるコーナーが用意されています。開催を始めたのは、代表の濱田嘉代子さんが、夏休み中にひとりりで自転車に乗っている子どもを見かけて、長い夏休みの間に一日だけでも、子どもが楽しく過ごしてもらえ場所が地域にあればと思ったことがきっかけです。早速、ボランティアメンバーと話し合い、毎年、開催することに決めました。



世代間のつながりが生まれる

当初は、子どもを対象にしていたが、しみず会が定期的開催し



ている交流会に参加していた高齢者から、自分たちも参加したいとの声がありました。

今では、毎年、子どもを中心に、三代、親子連れ、高齢者など幅広い年代からの参加があるので、世代間交流の場にもなっています。高齢者からも、「懐かしいね。」「子ども以上に楽しんでるかも。」などの声が聞かれます。ボランティアからは、参加した子どもに向けて、「道で会ったら声かけてね」との声かけもありました。子どもから高齢者まで、楽しい夏の一と時を過ごしています。

コロナ禍を乗り越えて

畑ノ浦・旭ヶ丘しみず会は、コロナ禍で外出の機会が減ることで、体力

が低下したり、自宅に閉じこもりがちになったりしてしまうことを防ぐと、感染の状況をみて予防対策をとりながら行事を続けて来ました。おかげで、みんな元気に参加し続けることができています。

ポイント!

- 一緒に楽しい時間を過ごす地域での顔見知りが増える!
- 初めての出会いから日常の交流につながっている。
- ボランティア自身も元気になる!

上中ふれあい喫茶「なごみ」

(上中ふれあいの会)

【上中】

〈人口〉1953人 〈世帯数〉847世帯
〈高齢化率〉28.06%
(令和5年5月31日現在)

「上中ふれあいの会」は、上中の地域のみなが、気軽に喫茶を飲んでほっとひと息つける場所があればとの思いで、当時の民生委員を中心に平成25年5月に結成されました。現在の代表の出川明子さんと4代目です。上中南集会所で、第2水曜と第4土曜にふれあいいきいきサロンを開催しています。コロナ禍で開催できなかった時でも、「なごみ通信」を発行して、つながりを絶やさないように工夫していました。サロンの運営は、4つの班が交替で担当しています。取材に訪れた時はすみれ班 **裏に続く**



すみれ班ならではの歌声喫茶の時間

が担当の日でした。
 サロンに参加した人はコーヒーと手作りのお菓子を楽しみながら会話に花を咲かせます。すみれ班リーダーの木村輔見さんは、「地元でとれた材料でお菓子作りや飾りつけをしている。みんながボランティアの気持ちで持ち寄っているのが、喜んでもらえるのが嬉しい。」と笑顔で話します。すみれ班では、サロンの合間に、ボ



ランテアが司会をして歌声喫茶の時間もはさんでいます。参加者からは、「みんなで歌うと楽しいし、元気が出る。」「顔を合わせられるのがいい。」と喜ばれています。



ポイント！
 ● 楽しいおしゃべりで顔を合わせさせる大切さを再確認できている。
 ● 集まる場所が通いやすい距離にある。

上中いきいき百歳体操
 —上中南集会所にて—
 いきいき百歳体操は介護予防が目的です。地域包括支援センターから勧められたことがきっかけで、有志のボランティアメンバーが平成30年9月から毎週土曜に開催しています。リーダーの吉村絹代さんがDVDのスイッチを押し、参加者は映像をお手本にして体を動かします。DVDから「もう10回。」の声がかかると、「よっしゃー！」

ポイント！
 ● 楽しいおしゃべりで顔を合わせさせる大切さを再確認できている。
 ● 集まる場所が通いやすい距離にある。

ポイント！
 ● コロナ禍で会えなかった分、顔が見えるつながりが嬉しい。

三角(みかど)地区にて—
 上中地区の北の端に、「三角(みかど)」という、12軒ほどの小さな集落があります。上中地区は南北に細長く、上中南集会所まで通うには距離があるという悩みがありました。そこで、「三角三友会館」でも、令和2年2月からいきいき百歳体操を始めることにしました。みんなが徒歩数分で集まることのできる距離です。第2、第4土曜の16時からで、5〜6人ほどが参加しています。「ここだったらずぐに出て来られるし、外に出るきっかけがないと、家でじっとしているだけになってしまうと思った。」と、まとめ役の山下則子さんは話します。体操が終わると、机を囲んで、体調のことや畑の作物のことなど近況を楽しくおしゃべりします。「こうして顔を合わせて話ができるのがいい。」「体操の回数を増やせないかな。」「外に出ることが大切。」と参加している方にも好評です。



三角地区でのいきいき百歳体操の様子

● 地区担当SCよりひとこと
 コロナ禍で顔を合わせられる機会が減っていた分、つながりの大切さを実感しながら、地域活動を再開されている地域が多いです。参加する方だけでなくボランティアさん自身も楽しんで活動していることが印象的でした。



つながる通信

全国の事例はこちらからご覧ください。

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

HPアドレス:<https://www.t-net.online/>